

平成28年6月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年6月の山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）は、収益状況と景況感はともに若干改善したが、売上高は14ポイント悪化している。

前月比で比較すると売上高は不変、収益状況は8ポイント、景況感6ポイント改善傾向にあるが、製造業では前月比の収益状況5ポイント改善、景況感不変だが、売上高は15ポイントと3ヶ月連続で悪化した。

これまでサービス業関連ではインバウンド需要の下支えがあったものの、中国経済の減速や株安・円高、大手自動車メーカーの燃費データ不正問題の影響が製造業関連の景気の引き下げ要因となっている。英国EU離脱やテロ行為などによる世界経済への先行き不安から、安全資産として日本円への需要が高まり更なる円高要因となっており、景気全般への影響が懸念される。

製造業では、輸出の減少や原材料の値上がり、廉価輸入品の拡大による国産のシェア縮小等を懸念する報告が寄せられた。

非製造業は、消費税率引き上げの延期により駆け込み需要が期待できなくなったなかで価格競争は熾烈になりつつある。

マイナス金利導入で住宅ローン金利や企業の借入金利は低下傾向にあるものの、世界経済の先行き不透明感が国内景気の後退感を一層強めており、個人消費が持ち直す要因が不足している。一方で、経営者の高齢化に伴う事業継承問題や技能者などの不足等、経営課題も多く中小企業の経営力強化が急務である。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ホテル・レストラン等向けの生食材は横ばいだが、ギフト関係は日本郵政向けのカatalog販売が再開したため伸長、前年同月比105%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の専門店向けやOEMが好調だったが、量販店や輸出が不振のため全体の売上は97%。
食料品（製麺）	組合員の減少や売上の減少などにより、組合運営が厳しい。
食料品（菓子）	円高により原材料が値上がりしているため、コスト増。
食料品（ワイン）	円高により輸入ワインの消費が高まり、国産ワインの売上減を懸念。
繊維・同製品（織物）	全体的に動きが悪く厳しい状況が続いている。ホテル向けの高級インテリア製品は需要はあるが、受注価格が厳しい。
繊維・同製品（アパレル）	オーダー製造は、原材料等の値上がりに伴い販売単価がアップした。
木材・木製品製造	イギリスのEU離脱問題により外材の値動きを注視している。
窯業・土石（砂利）	昨年から引き続き地域格差が生じている。

窯業・土石（山採石）	平成28年度に入り、前年4月の出荷量は不変だが出荷製品に偏りが見られる。5月に入り、景気刺激策として今年度前期に80%の公共事業契約を明言しているが、骨材出荷量は4%減少。
一般機器	円高・株価の低迷等で受注先からは在庫調整があり、自動車・設備機械関係の輸出の減少、個人消費の停滞も続き厳しい状況が長期化する傾向にある。
電気機器	国内外の諸問題が大きく景気に悪影響を与えている。
宝飾（研磨）	香港での展示会に期待したが、非常に厳しい結果となった。
宝飾（貴金属）	売上は増加傾向だが、原材料の地金が値上がりしているため利益に結びつかない。

● 非製造業

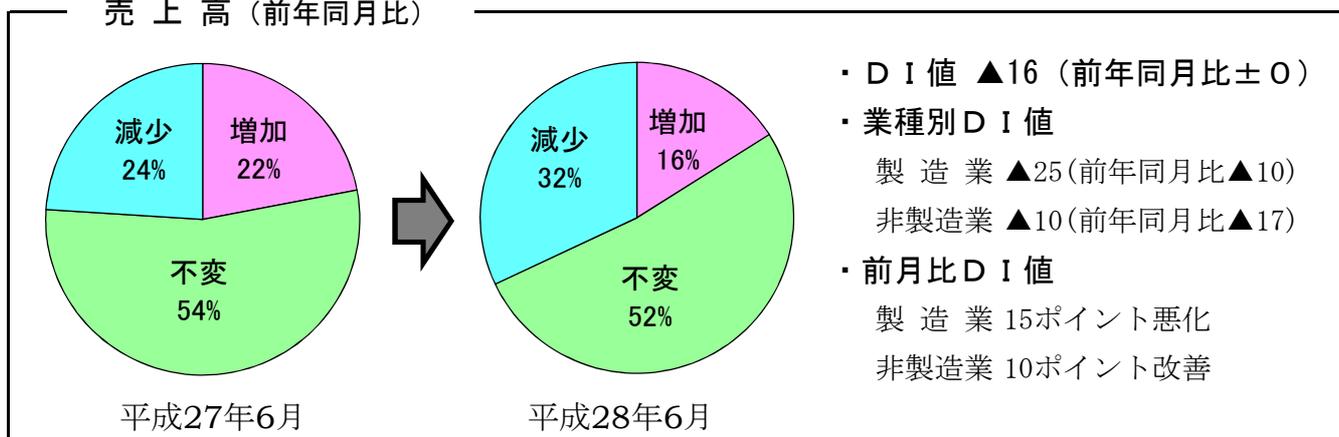
卸売（塗料）	円高により、海外での価格競争は不利になっている。
小売（食肉）	国産の豚・牛肉の出荷量の減少により相場が高騰している。また、世界的な異常気象等の影響により輸入食肉の入荷量も減少しているため、価格が上昇し販売価格に影響が出てきている。
小売（電機製品）	夏商戦を迎えエアコン販売の好調により地域店・量販店とも前年同月比114%。しかし、テレビ、冷蔵庫等の売上は前年を下回った。
宿泊業①	中国からの団体客に陰りが見始めていることから、行政と連携して東南アジア方面の誘客に力を入れていく必要がある。
宿泊業②	円高が進むとインバウンドが減少すると予想。先行きに不安感がある。
美容業	美容院店舗数の増加による過当競争や低価格競争により格差が拡大している。また、組合員の高齢化により脱退者が増加傾向にある。
警備業	警備の受注量は多いが、警備員不足や高齢化により受注に応えられない状況にある。
建設業（総合）	6月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は不変だが請負金額は38%増加。累計では、前倒し発注の政策が要因と考えられるが、件数で2%、請負金額では22%増加。
建設業（住宅関連）	ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス支援事業（ZEH）等の国の施策が大きく動いているので、積極的に取り組む必要がある。
建設業（型枠）	公共民間工事ともに多少の動きが出てきたが、平年より動きが鈍い。首都圏に仕事を求める組合員も多い。請負単価も下がるなか、社会保険の加入義務化や材料代の高騰などにより経営が厳しい組合員が多い。
建設業（鉄構）	全体に稼働率が低下している。
設備工事（電気工事）	通年この時期は仕事量は少なく低迷している。本年も山梨県は国からの予算が激減していることから先行きは暗い。
設備工事（管設備）	経営者や労働者の高齢化により事業継承や人材育成が急務である。
運輸（タクシー）	夜間利用の乗客が減少しているため、売上も前年に比べ減少している。
運輸（トラック）	運送業界は、物流二法の施行以降多くの参入が続き大手元請業者による下請への運送再委託が常態化しており利益確保が困難。また、ドライバー不足が深刻化している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

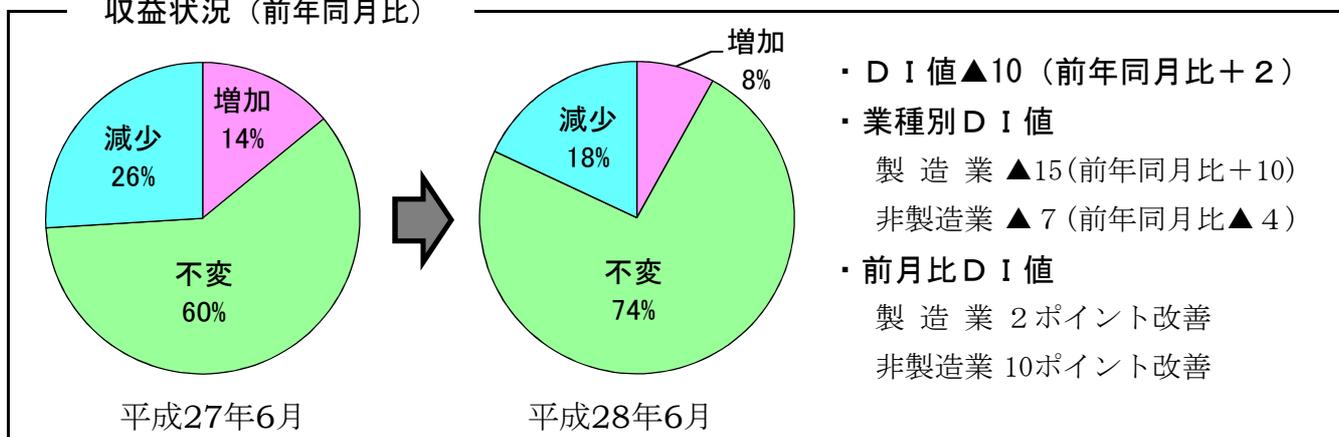
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/6	2016/5	2016/6	2015/6	2016/5	2016/6	2015/6	2016/5	2016/6
売 上 高	-15	-10	-25	7	-20	-10	-2	-16	-16
収 益 状 況	-25	-20	-15	-3	-17	-7	-12	-18	-10
景 況 感	-15	-25	-25	-17	-17	-7	-16	-20	-14

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

